

Monthly
Company
Magazine

ONDO

January 1月
No.532 2022

株式会社
ウチヤ・サーモスタット
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037

埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL: 048-955-4181

FAX: 048-956-1310

E-mail: info@uchiya.co.jp

月刊 おんど

謹賀新年 2022年 新春挨拶

令和4年1月元旦

社長 清水 澄人

新年明けまして、おめでとう御座います。

昨年はコロナ感染で明け、概ね9ヶ月に渡りコロナ感染拡大とその混乱が続きましたが、10月に入って漸くワクチン摂取の進展もあり、平生を保てる様になりました。思えば本当に際どい命懸けの年でありました。その様な中で東京オリンピック 2020 やパラリンピック 2020 が、良くもまあ無事に完結出来たことは只々幸運でありました。この間、自宅治療を余儀なくされる事態も発生、不幸にして重症化して尊い命を余りにも突然失った方々には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

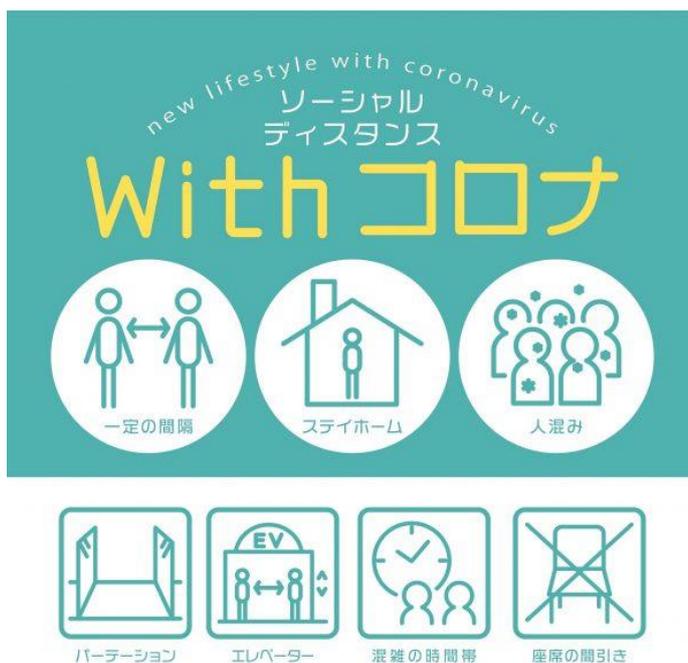
ですから、新年とは申うせ少し慎ましい挨拶に控えさせて頂きたいと思っております。



今年は寅年(壬寅)、陽気を孕み厳冬を耐え「寅」春の胎動を、本質的な実力を養いながら、何事にも好奇心を持ってポジティブに進めば、華々しい成果が期待できる、希望にあふれる年になると言われています。額面通りなら良い年となるのですが、予想されるコロナ感染6波をワクチンの3回目摂取や飲み薬としての治療薬の投入、病床や医療関係者の国家管理や運用、地方自治体との連携を強化、等々の施策でどうか穏便に凌げることを期待します。

昨年の11月15日には第5波の収束を待って、久しぶりに伊勢神宮を参拝致しました。ビックリする程の人出(修学旅行や団体の参拝)がありましたが、弊社の協力会社様、サプライヤー各社様、又、ウチャ役員及び従業員並びにその家族、先ずは皆々様の健康を祈願、そして、2022年度は、ウチャ社がコロナ禍を乗り越え、力強く世界に安全を供給することを誓う祈念をさせて頂きました。

今期2月末決算予測としましては、お陰様で業績は新型コロナ感染出現以前(2年前)の水準以上に戻り、人件費や部材高騰はありますが、次の成長準備可能な適正利益は確保出来るものと判断しております。本年度は積極的な業務活動を再開させて、ウチャ社の更なるビジネス発展の陣頭指揮を進めて参りたいと思っておりますので、何卒協力御支援の程を皆様をお願い申し上げます。



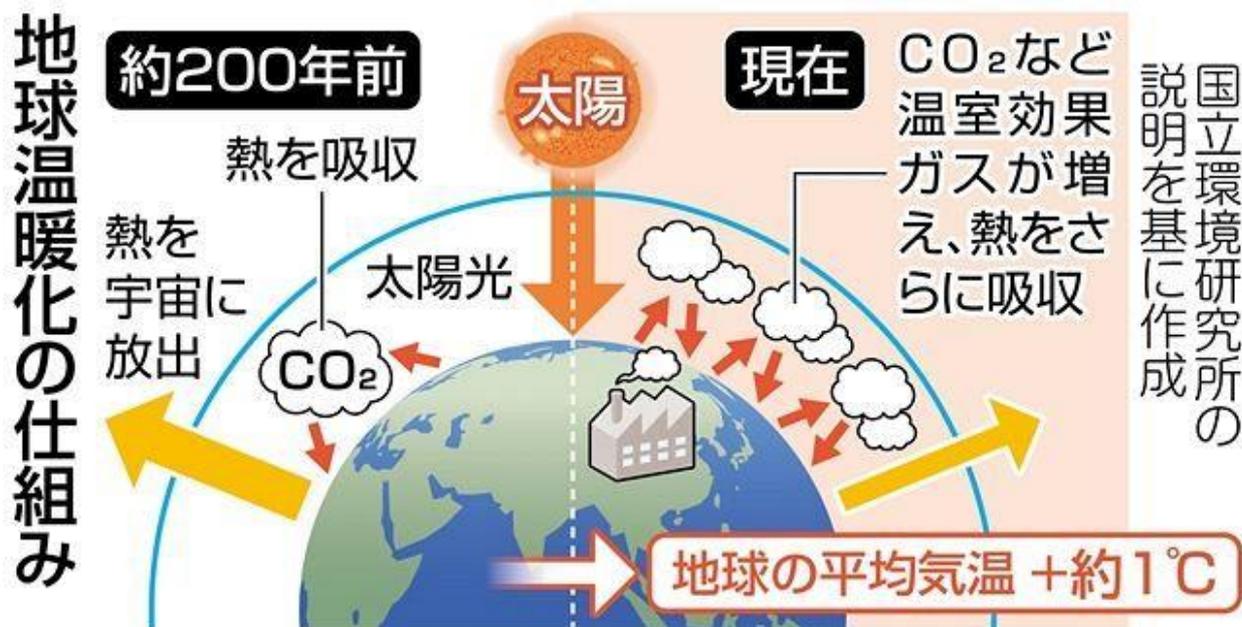
今年のウチャ社のチャレンジを一つ紹介しますと、デジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組むことです。さまざまな企業が全社DXを推進するデジタルイノベーション本部を立ち上げたいと思っています。デジタルトランスフォーメーションは、「DX」と略して使用され、デジタルトランスフォーメーションを英語で表すと「Digital Transformation」です。「Transformation」は「X-formation」と表記されるため、頭文字を取ってDXと略されるようになりました。「Transformation」が「X-formation」と表記される理由は、「Trans」という言葉の由来にあります。この単語はラテン語の「trans」が由来で、「変える」や「超える」といった意味を持ちます。この場合の「trans」は、「cross」という言葉と同義です。「交差する」という意味の「cross」は省略して「X」と書かれ、同じ意味の「trans」も「X」で代用されるようになりました。

DXとは、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立することです。

- (1)アナログ情報をデジタル化する局所的なデジタイゼーションを行い、
- (2)次にプロセス全体もデジタル化する全域的なデジタイゼーションで新たな価値を創造、
- (3)その結果として社会的な影響を生み出すのがデジタルトランスフォーメーションです。



さて、我々を取り巻く国内外情勢に関してですが、世界規模のコロナ禍の継続と経済の停滞、気候変動に因る多くの被害及びCO2 対策としての急激なエネルギー改革の社会的要
求、SDGs の国際活動とは裏腹に貧困や格差社会の拡大、原油高、食糧価格高、人手不足、
電力不足、半導体不足、金利上昇、インフレ拡大、等々の世界規模の経済及び環境・社会問
題あります。



他方、日本国内に置きますと、日本企業の製品の信頼を脅かす品質データ偽装や検査不正、大規模リコール及び海外安全規格違反、等々の不祥事が次々と発覚し日本企業を蝕む深刻な事態となっています。不具合、設計不正、品質問題、の連鎖に歯止めがかからない状況でここ5年を振り返ると、深刻なものだけで40件あまりの品質問題が発生しています。2021年 三菱電機社の鉄道用の空調設備での検査偽装、2020年 デンソー製の燃料ポンプ部品の不具合、2019年 大和ハウス工業社の2,000棟を超える住宅で建築基準法違反、2018年 旭硝子社の子会社で検査を一部実施せず出荷、2017年 日産自動車やSUBARU(スバル)による無資格者の完成車検査、2016年 三菱自動車のカタログ燃費の詐称及び不正計測、2016年 東洋ゴムの免震パネル、防振ゴムなどデータ偽装、2015年 タカタ社のエアバッグ不具合。

● 日本企業が最重視してきたもの ●

企業活動の分野で日本企業（特にメーカー）がこれまで最重視してきたのは、次の3点である。

品質 **コスト** **納期**

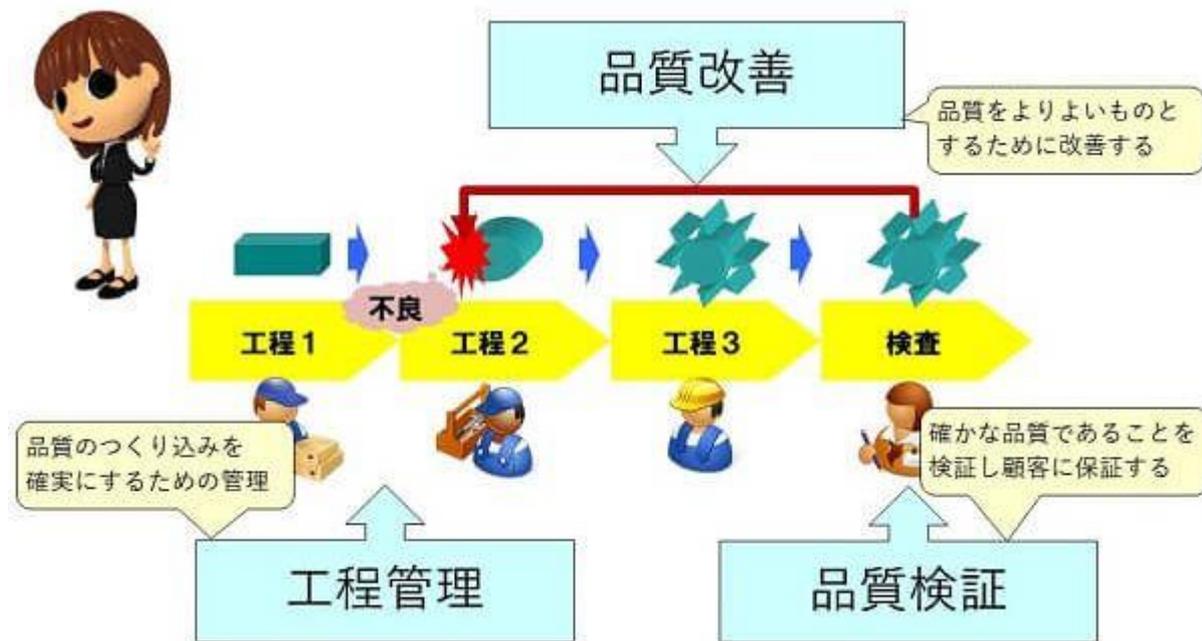
日本の産業界は外部からの圧力を受けるたびに必ずと言っていいほど、次のような反応を示す。

- ★技術的に対応が困難。
- ★因果関係が科学的に解明されていない。
- ★コスト負担が重すぎる。

これらの理由によって **事態の先送り**が行われる。

(2007年 小澤徳太郎)

これらの結果は、ニュースでも報じられている三菱電機では、検査不正問題は、経営トップの引責辞任にもつながり、タカタ社は経営破綻、株式会社東芝はグループを三事業に分割しての再出発、日立金属株式会社は投資会社に譲渡されてしまいました。みずほ銀行のバンキングシステム障害も品質不良であり、頭取が引責辞任を繰り返しています。品質問題が如何に企業の盛衰に大きな影響を及ぼすかは自明の理、火を見るより明らかです。



効率性の向上を追求する姿勢から、経営陣は好調な業績を示すのに必死になり、それが時には品質管理の限界を試すところまで行ってしまっている、さらに、中核社員や管理職者が



ギリギリまで追い込まれ、過労や不正につながるケースも中にはあると言われています。これら大手一流企業と言われて来た上場会社でさえ、この様な有様を見ますと今更の様に品質問題の恐ろしさを再認識すると共に、他人事ではない問題として厳粛に受け止め、ウチヤ社に置いても同様の問題が潜んでいなか！品質に置きましては、ものづくりの原点に立ち返って点検と見直しを鋭意進めます。

宇治橋は、三重県伊勢市にある内宮の参道口、五十鈴川にかかる橋。日本百名橋の一つ。以上、本年も宜しく願い申し上げます。